

会計人材開発支援プログラムの概要について

ASBJ 副委員長 あらい たけひろ
新井 武広

1 はじめに

金融資本市場のグローバル化に対応し、2010年3月期より国際的な財務・事業活動を行う一定の要件を満たす上場会社の連結財務諸表に国際財務報告基準（IFRS）の任意適用が開始された。これに伴い、国際的な会計基準開発の舞台で我が国の存在感を発揮するとともに、我が国の状況を踏まえた国際的な会計基準開発を求めていくことがますます重要になってきている。

本誌第34号において、「中長期視点からの会計人材の育成に向けて」と題し、我が国の会計人材育成の現状と今後の戦略の展望について述べたが、本稿では、財務会計基準機構（FASF）内に2011年8月に設置した「会計人材開発タスクフォース」で取りまとめた会計人材開発支援プログラムの概要を紹介することとする。なお、意見にわたる部分は、筆者の私見である。

2 会計人材開発タスクフォースの設置の趣旨と審議経過

現在、我が国では、金融資本市場のインフラの1つである会計基準について、日本の会計基準とIFRSとの今後のコンバージェンスの在り方や我が国の財務報告システムへのIFRSの取

り込み方の検討が進められているが、国際的な会計基準開発の場において、国際会計基準審議会（IASB）理事、IFRS解釈指針委員会委員、IFRS諮問会議委員をはじめ、さまざまな国際的な組織や会議体に優秀な人材を継続的に送る取組みを強化することも重要となってきている。しかし、残念ながら、我が国の現状を見ると、会計人材、特に国際的な会計人材の育成に関して必ずしも明確な戦略はなく、各市場関係者における現場での育成に委ねられている状況にある。一方、アジア諸国ではIFRSの導入を機に国際的な発言力の強化に向けてさまざまな活動が行われている模様である。したがって、これらの状況を踏まえると、中長期的視野に立った、オール・ジャパンとしての会計人材の育成、特に国際的な会計人材の育成を計画的かつ組織的に取り組んでいくことが喫緊の課題と考えられる。

FASFでは、このような現状認識に基づき、今年春にFASFの構造改革の一環として会計人材開発の構想を固め、8月に「会計人材開発タスクフォース」を設置した。当タスクフォースのメンバーは、財務諸表作成者、利用者、監査人等、市場関係者が一体となって取り組んでいく必要があるため、FASF、企業会計基準委員会（ASBJ）の者だけでなく、日本公認会計士協会、日本経済団体連合会、日本証券アナリス

ト協会、大手監査法人、IASB 理事経験者から 加わっていただいた。
構成し、さらにオブザーバーとして金融庁にも

(1) 「会計人材開発タスクフォース」メンバーリスト

職位	氏名	所属
委員長	新井 武 広	ASBJ 副委員長
委員	内田 和 宏	有限責任あずさ監査法人 人事部長
	木内 仁 志	あらた監査法人 代表社員 IFRS テクニカルリーダー
	宗像 雄一郎	新日本有限責任監査法人 国際部 シニアパートナー テクノロジーインダストリーリーダー
	津田 良 洋	有限責任監査法人トーマツ パートナー 教育研修部長
	木下 俊 男	日本公認会計士協会 専務理事
	阿部 泰 久	日本経済団体連合会 経済基盤本部長
	八木 健	日本証券アナリスト協会 常務理事
	山田 辰 己	FASF 顧問
	加藤 厚	ASBJ 副委員長 国際対応 TF 委員長
	都 正 二	ASBJ 常勤委員

オブザーバー

職位	氏名	所属
金融庁	栗田 照 久	金融庁 総務企画局 企業開示課長
ASBJ	西川 郁 生	ASBJ 委員長
FASF	高橋 秀 夫	FASF 代表理事常務

(敬称略)

(2) 審議スケジュールと審議内容

① 第 1 回 平成 23 年 8 月 9 日

- 国際的な舞台で活躍する会計人材の現状
- 各社・各団体での会計人材育成（特にグローバル人材）への取り組み
- 全体的な意見交換

② 第 2 回 平成 23 年 9 月 8 日

- 会計人材開発に関する具体的なプログラムの検討

③ 第 3 回 平成 23 年 9 月 28 日

- 参考人（湯浅一生 IFRS 解釈指針委員会委員、川西安喜 FASB 国際研究員）からの意見聴取

- 会計人材開発に関する具体的なプログラムの検討

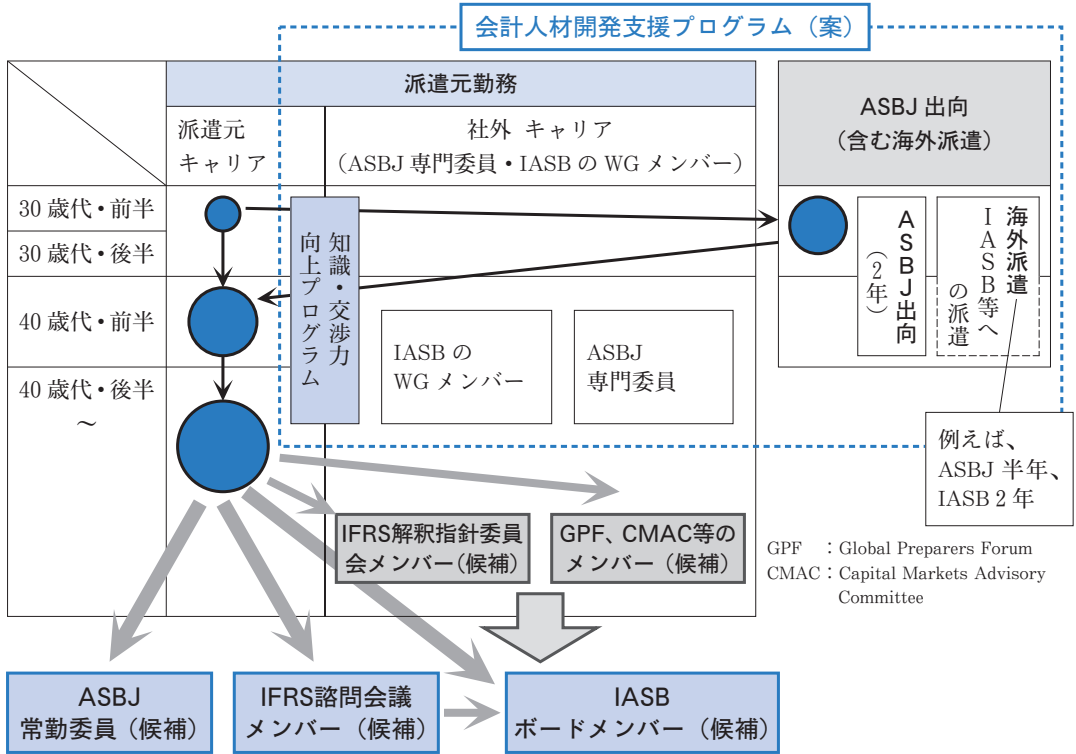
④ 第 4 回 平成 23 年 10 月 17 日

- 会計人材開発に関する具体的なプログラムの検討

⑤ 第 5 回 平成 23 年 11 月 11 日

- 会計人材開発に関する具体的なプログラムのとりまとめ

(図表 1) 会計人材開発支援プログラムの全体像



3 会計人材開発支援プログラムの策定にあたっての基本的な考え方

(1) 対象者

「会計人材」の対象としては、財務諸表作成者、財務諸表利用者、監査人、学識経験者と幅広く考えられるが、育成という観点から、市場関係者である財務諸表作成者、財務諸表利用者、監査人を主たる対象とすることとした。また、中長期的視点からの取組みであることから、若い世代を含め、幅広い層が参加できるものとする。そして、本プログラムの趣旨が、国際的な発言力の強化に向けた、さまざまな国際的な組織や会議体のメンバーに優秀な人材を継続的に送る取組みであることから、会計人材全体の底上げも重要な課題であると認識しつつ

も、会計に関する知識や英語力について一定水準以上の者を対象とすることとした。

(2) プログラムの成果 (求められる人材像)

当タスクフォースでは、本プログラムに参加した成果、その結果求められる人材像について、かなりの時間をかけて検討した。その結果、高度な会計専門知識を有するとともに、国際舞台で活躍する人材を育てることが最終目標であるが、それに向けて、2つの成果目標を定めて取り組むこととした。具体的には、若い世代を対象としてIASBのプロジェクト・マネージャーレベルの人材を養成するとともに、IASB理事候補やIFRS解釈指針委員会委員候補、IFRS諮問会議委員候補、ASBJ常勤委員(国際担当)候補等の輩出を目標とすることとした(図表1)

参照)。

また、本プログラムに参加するメンバーに対して、個々人の能力に合わせて、IASB が設けている各種ワーキング・グループへの参加、ラウンド・テーブル等での意見発信など、国際舞台で活躍する場を複数提供できるよう努めることとした。

そのほか、若手においては、受講状況を IASB 等への ASBJ を通じたスタッフ派遣の選考材料の参考とすることも予定している。なお、プログラムを円滑に遂行していくにあたって、参加するメンバーのみならず、メンバーを派遣する派遣元のバックアップも重要であるので、派遣元が参加者の受講状況を把握する一助として、派遣元から要請がある場合には、フィードバック情報を定期的に提供することとした。

(3) 会計人材開発支援プログラムの構成

本プログラムは、会計基準に関する専門的知識や英語力の向上を柱とするものであり、各社及び各団体で提供されている研修プログラムと有機的に結びつけられるものとするのが望まれる。この点は、当タスクフォースでの検討の中でも強調された点である。また、本プログラムは、市場関係者の所属元に在籍しながら受講可能なプログラムを基本としつつ、特に若手においては ASBJ や IASB 等への出向を通じた研鑽もプログラムの 1 つと位置付けることとした。

市場関係者の所属元に在籍しながら受講可能なプログラムは、プログラムを受講した成果イメージとの関係で、IASB プロジェクト・マネージャーレベルの人材育成を目標とした「プロジェクト A」と、IASB 理事候補や IFRS 解釈指針委員会委員候補等の育成を目標とした「プロジェクト B」の 2 つに分け、それぞれに沿った具体的なプログラムを提供することとした(図表 2 参照)。

なお、IFRS 解釈指針委員会委員、IFRS 諮問

会議委員等、特定のセクター出身者を想定しているものへの対応についても当タスクフォースの中で検討したが、「プロジェクト B」の中で対応し、本プログラム実施後、必要に応じて追加検討することとした。

(4) 提供するプログラムの期間

提供するプログラムの期間は、基本的には 2 年とすることとした。なお、人材プールという観点からプログラム終了後も、ニーズを踏まえ、英語力の維持・向上や人的交流の維持を目的としたプログラムを継続的に提供することを予定している。なお、プロジェクト期間終了後、再度、当該プロジェクトに参加することも認めることとしている。

4 会計人材開発支援プログラムの具体的な内容

(1) プロジェクト A の内容

「プロジェクト A」は、IASB プロジェクト・マネージャーレベルの人材育成を目標とすることから、IFRS 開発の基礎にある考え方(概念フレームワーク)の深い理解を図り、論理構成力を磨くとともに、英語力(writingを含む)の強化に主眼を置いた、以下の 7 つの個別プログラムを用意することとした。「プロジェクト A」全体の受講に要する時間合計は、1 年間で 120 時間程度(ディスカッション・トレーニングを含む)を予定している。

① ASBJ 基調プログラム A (年 4 回)

ASBJ から基調となるプログラムを提供するものであり、IASB の基準開発における日本の市場関係者の意見や ASBJ の取組み等の説明・意見交換を通じて、基準開発に関する論理構成力や知識力のアップを図る。この中では、日本基準と IFRS の相違点についての説明・意見交換も予定している。

図表 2 所属元に在籍しながら受講可能なプログラム 全体像

	目的	2年	3年目以降
プロジェクトA	知識	ASBJ 基調プログラム A	
	知識 英語	共通 IASB UP DATE プログラム (IASB の基準開発動向等)	
	知識	ACCOUNTING プログラム A	
	英語	writing トレーニング	IASB 等への派遣
		語学研修 (所属元)	
	英語	ディスカッション・トレーニング (希望者のみ) (語学研修の補完)	ASBJ 出向
	人的交流	共通 国際舞台で活躍する者との交流プログラム	
	英語	IFRS 財団サテライトオフィスを活用したプログラム (予定)	
プロジェクトB	知識	ASBJ 基調プログラム B	
	知識 英語	共通 IASB UP DATE プログラム (IASB の基準開発動向等)	
	知識	ACCOUNTING プログラム B	
	英語	ディスカッション・トレーニング	
	英語	ラウンド・テーブル等への参加プログラム	
	人的交流	市場関係者間交流プログラム	
	人的交流	共通 国際舞台で活躍する者との交流プログラム	
	人的交流	海外会計専門家交流プログラム (IFRS 財団サテライトオフィスの利用も検討)	

② IASB UP DATE プログラム (プロジェクト B と共通) (年 10 回)

鶯地隆継 IASB 理事、湯浅一生 IFRS 解釈指針委員会委員、金子誠一 IFRS 諮問会議委員、ASBJ 等からの最新の IASB の基準開発の状況の説明と質疑応答を通じ、IFRS に関する知識の向上を図る。

③ ACCOUNTING プログラム A (年 10 回)

川西安喜 FASB 国際研究員に講師をお願いし、参加者によるプレゼンテーション、ディベート等を通じて、IASB の概念フレームワークの考え方の背景をはじめ、概念フレームワークと個別基準との関係等、知識の深掘りに加え、個々の IFRS に関する知識力アップを図る。

④ writing トレーニング (年 10 回)

事前テーマによる英文レポートに対する講師による添削と講義により、会計基準特有の言い回しや専門用語の適切な使い分け、論理構成力を加味した英語の writing 技術の向上を図る。

⑤ ディスカッション・トレーニング (希望者のみ) (年 10 回)

会計基準に関するテーマでの Native Speaker との英語でのディスカッションを通じて、論理構成力と英語でのディスカッション力の向上を図る。

⑥ 国際舞台で活躍する者との交流プログラム (プロジェクト B と共通) (年 4 回)

国際舞台で活躍されている者との交流を通じ、国際的人材として必要な資質等に関する知識を深め、コミュニケーション力の向上を図る。

⑦ IASB サテライトオフィスを活用したプログラム (詳細は未定)

来年秋に東京に開設予定の IFRS 財団のサテライトオフィスを通じたプログラムにより、IFRS の知識の向上及び人的交流を図る。

(2) プロジェクト B の内容

「プロジェクト B」は、IASB の理事候補等

の輩出を目的とすることから、IFRS の基礎にある考え方(概念フレームワーク)のより深い理解とともに、英語のディスカッション力の強化や国内外の関係者との交流(ネットワーク作り)を通じたコミュニケーション力の強化に主眼を置いた、以下の 8 つのプログラムを用意することとした。「プロジェクト B」全体の受講に要する時間合計は、1 年間で 90 時間程度を予定している。

① ASBJ 基調プログラム B (年 4 回)

ASBJ から基調となるプログラムを提供するものであり、日本代表として国際舞台に立つことを念頭に置き、IFRS 開発における日本の市場関係者の意見や ASBJ の取組み等の説明・意見交換を通じて、基準開発に関する論理構成の理解を深めるとともに、知識力のアップを図る。この中では、日本基準と IFRS の相違点についての意見交換も予定している。

② IASB UP DATE プログラム (年 10 回)

プロジェクト A と共通

③ ACCOUNTING プログラム B (年 10 回)

秋葉賢一早稲田大学大学院会計研究科教授(前 ASBJ 主席研究員)に講師をお願いし、講義とディスカッションを通じて、概念フレームワークのより深い理解や個別基準に関する知識力アップに加え、日本基準の基本となる考え方の理解も深める。

④ ディスカッション・トレーニング (年 4 回)

Native Speaker との英語でのディスカッションを通じて、会計基準関係の英語でのディスカッション力と論理構成力の向上を図る。

⑤ ラウンド・テーブル等への参加プログラム (随時)

アジア地域等で開催される IASB 主催のラウンド・テーブルに参加し、英語のディスカッション力の向上や海外の会計専門家との人的交流を図る。

⑥ 市場関係者間交流プログラム (年 2 回 (内

1回は合宿を予定))

合宿方式を取り入れるなどにより、国内市場関係者等との交流を深め、コミュニケーション力の向上を図る。

⑦ 国際舞台で活躍する者との交流プログラム
(年4回)

プロジェクトAと共通

⑧ 海外会計専門家交流プログラム(年3~4回)

FASFが招聘する海外の会計関係者等との交流を通じ、英語でのコミュニケーション力の向上を図る。

5 おわりに

関係者の協力のもと、会計人材開発支援プログラムが完成し、戦略的な人材育成に向けて第

1歩を踏み出すことができたところである。来年1月下旬を目途にスタートする予定であるが、初めての試みであり、プログラムを実施していく過程で、いろいろと検討を要する事項がでてくることが予想される。したがって、当タスクフォースでは、プログラム実施後、実施状況を確認するとともに、修正すべき点がないか継続的にフォローアップしていく予定である。

会計人材の育成という点では、国内で活躍する会計人材の育成も重要である。現在は、それぞれの市場関係者におけるOJTが基本になっているが、今後、ASBJへの研究員としての出向、専門委員会専門委員としての参加等を含め、中長期的な視野に立って、別途、取組みを検討していきたいと考えている。

最後に、世界で通用する会計人材の育成、輩出に向けて、市場関係者のご理解とご協力を引き続きお願いする次第である。